

小田原市文化振興審議会 第5回会議 次第

日時：令和4年2月3日（木）

14時～

場所：けやき 2階 大会議室

1 開 会

2 議 題

(1) 小田原ならではの文化によるまちづくり基本計画（案）について

(2) 文化振興に関する提案について

3 その他

4 閉 会

小田原ならではの  
文化によるまちづくり基本計画(案)

令和4年2月

## 第1章 小田原市の多彩な文化

小田原は、温暖な気候と豊かな自然環境、首都圏等へのアクセスに優れた交通利便性、史跡小田原城跡をはじめとする魅力的な歴史・文化資産、地場産業やなりわい、市民の豊かな文化活動等が融合し、多彩な小田原ならではの文化を育んできました。

小田原ならではの文化は、主に次のような特徴が挙げられます。

<p>＜武士・戦国の文化＞</p> <p>小田原城やその城下町にみる、北条氏をはじめとする武家が繁栄した戦国の歴史や、この時代に育まれた、鋳物や漆器などものづくりの工芸文化</p>	<p>＜交通の文化＞</p> <p>古代より陸路、海路、鉄道などの多彩な交通の要衝であったとともに、人車鉄道、馬車鉄道、路面電車などから新幹線に至るまで、多様な交通手段により培われた交流文化</p>	<p>＜邸園文化＞</p> <p>明治・大正期以降、多くの政財界人や文人が移り住み、居を構えたことで花開いた、邸宅と庭園で展開された邸園文化</p>
<p>＜なりわい文化＞</p> <p>城下町・宿場町を中心に生みだされた、小田原物と称される木製品、水産練製品、梅干、和菓子、漬物など地域特性を生かした地場産業や、戦後に興った産業文化</p>	<p>＜まちづくり文化＞</p> <p>里山、里川、里海などの豊かな環境のもと、長い歴史の中でたびたび表舞台に登場し、各時代で築き上げてきた都市の重層性が作る都市形成の文化</p>	<p>＜舞台文化＞</p> <p>江戸期、市内に創設された芝居小屋「小田原桐座」。また、歌舞伎や能などの題材に取り上げられた日本三大仇討ちの一つ「曾我物」や、歌舞伎十八番の一つ「外郎売」などの舞台芸術文化</p>
<p>＜民衆の文化＞</p> <p>二宮尊徳が民衆に広めた報徳思想や、海や山など自然にまつわるもの、また、小田原囃子や木遣唄などにみられる、各地域に伝わる祭事・伝承に基づくお祭り・神輿・山車などの民俗文化</p>	<p>＜生活文化＞</p> <p>秀吉の一夜城での茶会、松永耳庵など近代小田原三茶人による茶道文化や、自然に恵まれた小田原ならではの食材を生かした暮らしの食文化など、生活に根づいた文化</p>	<p>＜市民文化＞</p> <p>戦後いち早く復興され、市民や文化団体が今日まで育んできた、美術や音楽、演劇、文芸などの市民による芸術活動の文化や、様々な市民活動による文化</p>

## 第2章 計画の策定にあたって

### (1) 計画策定に至る経緯

#### ア) 国の動向

- ① 平成13年12月に施行された「文化芸術振興基本法」第4条では、地方公共団体の責務として「文化芸術の振興に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。」と定めています。

平成29年6月には「文化芸術基本法」に改正され、基本理念の改正とともに、地方公共団体が定める「地方文化芸術推進基本計画」（努力義務）について規定されました。

- ② 平成24年6月に施行の「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」第7条では「地方公共団体は、この法律の目的を達成するため、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び当該地方公共団体の区域内の劇場、音楽堂等を積極的に活用しつつ実施する役割を果たすよう努めるものとする。」と定めています。

#### イ) 小田原市の政策の方針

小田原市では、平成24年3月に小田原らしい文化や文化のもとで目指すこれからの姿を「小田原市文化振興ビジョン」にまとめました。

令和2年4月に、文化芸術基本法を踏まえ、また、令和3年9月の市民ホールの開館を考慮し、市民一人一人が心豊かに希望を持って暮らしていくまちの実現及び文化による活力と魅力あふれるまちの実現のため「小田原市文化によるまちづくり条例」を制定しました。

#### (2) 計画策定の目的

本計画は、条例の基本理念並びに市の責務及び施策の方向性に即し、本市の文化の振興に関する施策及びこれによるまちづくりに関し、基本方針及び推進を図るための事項を定め、その施策の総合的かつ計画的な推進のために策定するものです。

#### (3) 計画の期間

本計画の期間は、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までとします。

### 第3章 文化によるまちづくりの考え方

#### (1) 文化の振興とまちづくり

文化は、長い歴史や風土に生まれ、人々の生活するところにあり、文化による人と人とのつながりは、生活にゆとりと潤いをもたらしてきました。

また、人々は過去いくたびか訪れた大きな災害などの困難をも地域の誇りである文化とともに乗り越えてきました。文化は未来への希望や生きる力を育む源となります。

小田原では、千年以上前から人々が生活を営み、豊かな文化が花開いてきました。歴史や風土に育まれた伝統、なりわい、生活、芸術等の小田原の文化が、まちの礎として過去から現在へ連綿と受け継がれ、さらに未来に向けて創造し続けていくことで個性と魅力あふれるまちがつくられると考えます。

「小田原ならではの」豊かな文化に触れた感動は、行動を起こす力となり、共感されることで持続させる力を生み出し、持続可能な暮らしの実現に寄与します。

文化を振興することは、市民一人一人の感性を育むことにとどまらず、人づくり、地域づくりなど社会の基盤形成、そして観光・教育・福祉・産業など諸活動の波及効果につながる未来のまちへの投資とも言えます。

## (2) 市民による文化の振興と行政の役割

市民一人一人が、文化の担い手であることを認識し、自ら小田原の文化を継承・創造し、発信していくことが望まれます。行政は、市の歴史・文化の把握と保存に努めるとともに、市民の自主性、創造性、多様性を尊重し、その活動の下支えとなるよう、必要な施策を市民とともに実施していきます。

## (3) 目指すまちの姿と基本目標

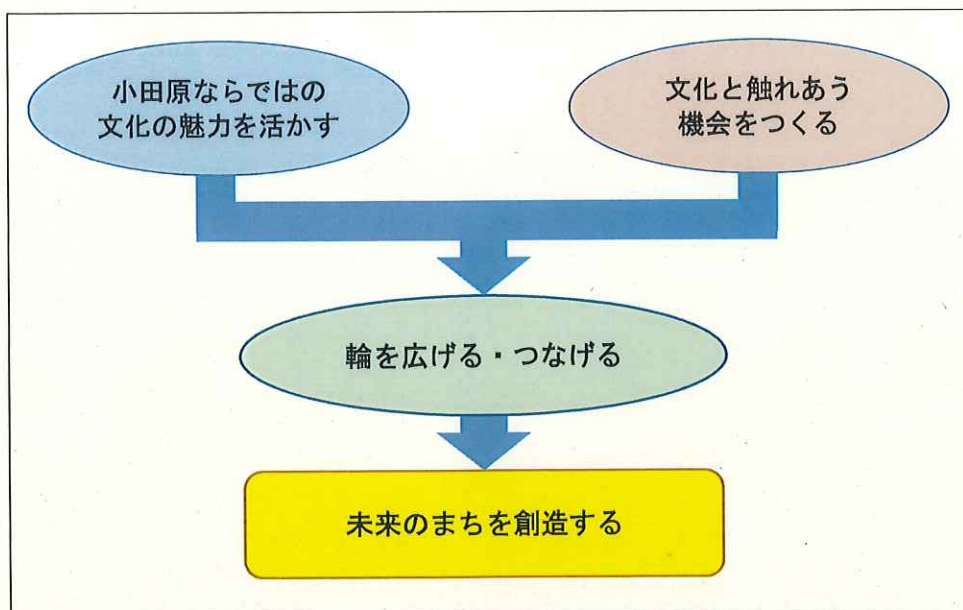
小田原市文化によるまちづくり条例の基本理念に基づき、本計画の目指すまちの姿と基本目標を次のように決めました。

### 小田原ならではの文化によるまちづくり

文化で人と人がつながり、ワクワク、ドキドキがあふれるまち  
まち全体が舞台となり、日常の暮らしに、文化が息づく魅力あるまち  
小田原ならではの文化が世界に開かれているまち

### <基本目標>

- 1 小田原ならではの文化の魅力を活かす
- 2 文化と触れあう機会をつくる
- 3 輪を広げる・つなげる
- 4 未来のまちを創造する





## 第4章 施策の推進・・・基本目標と取り組み内容

(○ = 関係分野 ⊗ = 文化 ⊕ = 産業 ⊙ = 観光 ⊙ = 教育 ⊕ = 地域 ⊕ = 食文化 ⊕ = 福祉)

### 基本目標1 小田原ならではの文化の魅力を活かす

長い歴史や風土の中で生まれ、受け継がれてきた「小田原ならではの」文化を守り、磨きをかけ、まちの魅力として活用します。

#### 施策1 文化を守り、伝える

⊗ ⊕ ⊙ ⊕ ⊕

小田原ならではの伝統、なりわい、生活、芸術等の小田原の文化を大切にするとともに、新しい光をあて、後世に継承します。

- ☐ 文化財建造物などの公開
- 郷土の歴史資産の収集や保存・活用・公開
- 無形民俗文化財などの継承支援
- 博物館構想の推進



#### 施策2 文化資源の保存と活用

⊗ ⊕ ⊙ ⊕ ⊕

歴史的・文化的資源を、小田原の誇りとして保存するとともに、その価値が十分に発揮されるよう積極的に活用します。

- ☐ 公民連携による歴史的建造物の利活用
- 文学のまちづくり事業の推進
- 二宮尊徳に関する資料収集や学習推進、顕彰
- 歴史・文化に育まれた食文化の保存・活用



### 基本目標2 文化と触れあう機会をつくる

文化・芸術の拠点である小田原三の丸ホールを中心に、すべての市民が文化に親しみ、身近に触れあう機会を作ります。



### 施策1 文化・芸術拠点である小田原三の丸ホールの活用

文 産 観 福

小田原三の丸ホールでの文化・芸術活動を推進するとともに、多くの人が集い、まちのにぎわい創出する施設としても活用します。

- ☐ 小田原三の丸ホールの管理運営



### 施策2 文化活動への支援

文 教 地

市民による文化活動の相談体制を整えるとともに、発表機会の充実を図り、多くの人々の活動への参加を促進します。

- ☐ 文化活動団体への支援  
文化情報の発信

### 施策3 文化・芸術に触れる身近な機会の充実

文 教 地 福

すべての市民が心豊かに暮らすことのできるよう、多様な文化・芸術に触れる機会の充実を図ります。また、暮らしの中で文化活動がより活発に行われるよう、地域と連携します。

- ☐ 市所蔵美術品の展示  
小田原三の丸ホールと地域との連携



## 基本目標3 輪を広げる・つなげる

「小田原ならではの」の継承と創造のもと、市民一人一人であると認識し、歴史的・文化的資源や市民の活動を内外に発信するとともに、様々な分野と連携・交流し、さらなる魅力の創出を図ります。

### 施策1 文化を支える地域と人材の育成

文 教 地 産 観 福

文化活動を行う人や担い手、活動を支える人づくりとともに、人と人をつなぎ、その活動の場を広げていくことにより、文化を地域で支えていく土壌を育てます。

- ☐ 若手芸術家の支援  
アウトリーチの実施  
郷土学習事業の実施  
文化基金の活用の検討





## 施策2 多彩な文化の発信 (文) (産) (観)

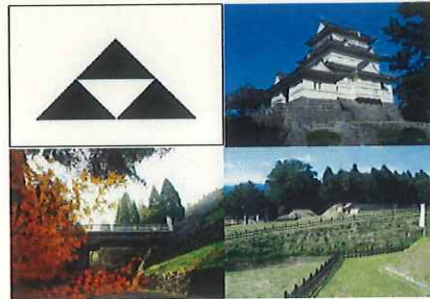
小田原ならではの文化や、地域・市民の文化活動を市内外に広く発信することで、市民自らが文化への理解を深めてもらうとともに、世界に向けて魅力を伝えます。

- ☐ 情報発信事業の充実  
SNS等を活用した情報発信の充実

## 施策3 市内外の交流の促進 (文) (教) (地) (産) (観)

国内外の姉妹都市をはじめ、交流のある都市との連携を強化するとともに、小田原ゆかりの文化に携わる人や団体等と連携することで、多くの人々との文化交流を促進します。

- ☐ 都市間交流事業の推進  
多様な交流の機会の創出



## 施策4 様々な分野・人材・団体等との連携

(教) (地) (福)

教育や福祉など他分野と連携することで、年齢や障がいの有無に関わらず、すべての人に文化に触れ機会を充実させるよう、文化団体のみならず、個性ある地域社会や多岐にわたる分野の人材・団体と協働・連携して文化活動を推進します。

- ☐ 生涯学習活動との連携  
民間施設等との連携  
市民による文化活動の活性化



## 施策5 産業・観光との連携による魅力の創出

(産) (観) (食)

産業・観光団体や、商店街等と連携してまちの各所に点在する文化資源を有効活用し、さらなる魅力の創出を図り、文化観光を推進します。

- ☐ 商店街等と連携したイベントの開催  
まちあるき観光の推進  
観光コンテンツの充実





## 基本目標4 未来のまちを創造する

小田原ならではの文化を子どもたちへ継承し、住み続けたい日常の豊かさを創造するとともに、文化の振興による社会の課題の解決等、地域から文化によるまちづくりを進めることで、市民一人一人が小田原ならではの文化に誇りを持ち、未来につながる「世界が憧れるまち小田原」を創造します。

### 施策1 文化を創造する風土を高める (教)(地)(産)(観)(福)

国籍、世代、性別、障がいの有無等に関わらず、多様な人々や地域社会がともに文化を創造する風土を醸成します。

- ☐ 新たな文化活動への支援の検討

### 施策2 デジタル文化の活用 (教)(地)(産)(観)(福)

リアルとバーチャルの共存する現代の文化を、デジタル技術を活用しながら、情報格差にも配慮し、バランスよく導入することで、人、地域、社会の多面的な出会いの機会を作ります。

- ☐ デジタル化の推進  
スーパーシティの実現

### 施策3 発信力を高める (教)(地)(産)(観)(福)

時間や場所を超えて、小田原発の文化を享受する機会を世界に向けて発信し、関係人口の増加につなげ、世界に誇れるまちをつくります。

- ☐ 情報発信事業の充実  
シティープロモーションの推進

### 施策4 持続可能なまちをつくる (地)(産)(観)(福)

次代を担う子どもたちが多様な文化を体験するまちで暮らすことで、強く、しなやかな心を育むとともに、市民が小田原に誇りを持ち、「小田原ならではの」が随所に感じられるまちをつくります。

また、SDGsの視点を取り込み、文化的資源や人のつながりを強化し、多様性と包摂性のある持続可能な社会を実現します。

- ☐ 鑑賞事業の実施、アウトリーチ事業の実施  
郷土学習事業の実施  
SDGsの推進



## 第5章 計画の評価と推進

文化振興審議会において推進する項目や取組の推進状況を管理し、結果や成果を評価することにより、計画の着実な推進を図ります。

### (1) 計画の評価

本計画を着実に推進するため、計画期間最終年度(2030年度)の目指す姿を設定します。

	施策	目指す姿(2030年度)	施策の実施により特に振興が図られる文化
基本目標1	施策1 文化を守り、伝える	小田原ならではの歴史や文化・伝統を、市民が広く認知・理解し、愛着を持って大切にするとともに、市民の多くが、その保存や継承に携わり、取り組んでいる。	
	施策2 文化資源の保存と活用	歴史的建造物等の利活用が充実し、多くの人が建造物を利用し、訪れ、広く親しまれている。	
基本目標2	施策1 文化・芸術拠点である小田原三の丸ホールの活用	市の文化・芸術活動を推進する拠点としての機能が確立され、全市民が一度はホールを訪れて様々な文化・芸術に触れており、さらに多くの人が集い交流が図られている。	
	施策2 文化活動への支援	市民自らが文化活動を行うための相談・情報提供等の支援体制が整い、発表などの機会の充実が図られている。	
	施策3 文化・芸術に触れる身近な機会の充実	日常生活により身近な場所でも、文化・芸術に触れる機会が創出され、市民の文化活動の充実が図られている。	
基本目標3	施策1 文化を支える地域と人材の育成	地域の伝統行事等を通じて世代間の交流が図られるとともに、人材育成のためのプログラム等が確立し、充実している。	
	施策2 多彩な文化の発信	様々なツールを活用した情報発信が整い、市内に限らず広く誰でも簡単に情報を得られる。	
	施策3 市内外の交流の促進	姉妹都市等と、歴史・文化の点においても広く交流が図られている。	

施策		目指す姿（2030年度）	施策の実施により特に振興が図られる文化
基本目標 3	施策4 様々な分野・人材・団体等との連携	地域や様々な分野の人・団体と多岐にわたって連携し、文化に触れる機会が提供され、協働して文化活動が行われている。	
	施策5 産業・観光との連携による魅力の創出	産業・観光団体等と文化資源を活用したイベントや催しが行われ、文化観光が促進されている。	
基本目標 4	施策1 文化を創造する風土を高める	市民自らが文化活動に参加して相互に交流し、文化活動の振興が図られ、文化活動への取り組み体制や支援が確立している。	
	施策2 デジタル文化の活用	デジタル技術を活用した、リアルとバーチャルが融合した公演が実施されるなど、より広く充実した文化活動が行われている。	
	施策3 発信力を高める	広く世界に対して、市の情報や文化活動が発信される体制が確立し、参加と交流が図られる。	
	施策4 持続可能なまちをつくる	文化活動の推進により、次代を担う子どもの豊かな心と小田原に対する誇りを育むとともに、「小田原ならではの」感じられるまちづくりが進み、持続可能な社会に向かって推進している。	

評価は、目指す姿がどの程度達成されているか、定量的な成果指標を設けるほか、文化に関わる多岐な活動も加味して総合的に検討し、以下に示す基準により5段階で評価します。

また、成果計測は毎年度行うこととし、取組の実施状況等を踏まえて中間見直しを行います。

評価区分	基準
順調	目指す姿に向け、着実に成果が上がっているもの。
やや順調	今後も継続して取り組むことにより、目指す姿の達成が可能であると見込まれるもの。
取組中	目指す姿の達成に向け、より一層取り組みが必要なもの。
停滞	目指す姿の達成が困難なもの。
未実施	施策に向けた取り組みを実施しなかったもの。

## （2）文化振興審議会

文化振興審議会は、文化の振興に関する施策及びこれによるまちづくりの推進に当たり、基本理念並びに市の責務及び施策の方向性に即した基本的な計画を策定するため、市長の諮問に応じて調査審議し、その結果を報告し、及び必要と認める事項について意見を具申するための機関です。

### (3) 市民による文化振興

市民が担い手として文化を支えていくことが望まれます。様々な分野の活動情報を総合的に共有する機会を創出して連携を図るとともに、市民による文化活動の取り組みとその成果発表の場の創設を検討します。

### (4) 庁内体制

庁内の各部署が連携する体制を整え、文化の振興に関する施策及びこれによるまちづくりを総合的かつ計画的に推進します。



## 文化振興に関する提案

1. 市民活動の発表会と表彰制度の導入
  - 1) 市民が自主的に活動している文化組織はたくさんある。
  - 2) それぞれの発表の場をつくり文化活動を広く知ってもらおう機会とする。
  - 3) 同時に、表彰制度を導入することで活動の質を高くしていただく機会となる。
  - 4) 表彰によって活動のモチベーションも上がる。
- こうした流れを作ることが、小田原市民の文化活動を啓蒙し、持続可能になる。

### 市民の発表の場をつくる

- ・市民が主体的に取り組んだことをアピールしてもらおう
- ・毎年、活動計画書を提出してもらい、活動の見える化を図る
- ・幅広いジャンルや世代の活動を拾い上げる
- ・文化の日に行うとより意味を持つ

### 表彰する

- ・幅広い評価指標 人・活動・業績など
- ・毎年違う賞をつくってもいい
- ・プロとの区別の付け方を検討
- ・活動にテーマを設けても面白い

表彰者同士  
の、  
横のつながり  
が生まれる可  
能性もある

## 2. 「表彰制度の仕組み」を作る

- ・市民の発表の場を作る。その仕組みを作る。
  - ・市民が主体的にやったことを提出してもらい、アピールしてもらい、表彰等を行う。
  - ・小田原ならではの活動を評価して行きたい。ジャンルや世代を幅広く捉えて、対象は人・活動・業績でもいい（表彰）。
  - ・文化の日に発表するのがいい
  - ・公募の形式として、活動計画書、あるいは活動報告書を提出してもらい、市としても情報を得る。見える化が大事
- 邸園文化祭は毎年活動企画を新年度になると提出、年末に活動報告書を提出するしくみにしている。編集して全体の活動報告書を作成している。
- ・プロに対しては、業績を評価するのが適当か。

○表彰にあたって、表彰対象の年代を区切ってもよい

例) 幼児

小中学生

高校生

大学生 18 歳～30 歳

30 以上

65 歳以上

○分野

例) 音楽 (クラシック・コーラス・合奏等)・演劇 (オペラ・演劇等)・ダンス (ジャズダンス・ヒップホップ・フラダンス等)  
芸能 (漫才・落語等)

○活動に対する補助金があればよい。

○審査は誰がやるのか>審査委員会を設ける。